

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

平成 31 年 4 月 1 日改正
(平成 31 年 4 月 1 日適用)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

②施設・事業所情報

名称：瑞浪市立陶幼児園	種別：保育所
代表者氏名：土屋 和代	定員（利用人数）： 90（41）名
所在地：岐阜県瑞浪市陶町猿爪1082-46	
TEL：0572-65-2053	ホームページ： https://www.city.mizunami.lg.jp/kosodate/kosodateshien/1004151/1001283/1001395/1002145.html
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 昭和27年	
経営法人・設置主体（法人名等）：瑞浪市	
職員数	常勤職員： 5 名 非常勤職員 8 名
専門職員	（専門職の名称） 名
	保育士 5 名 保育士 7 名
	事務員 1 名
施設・設備 の概要	（居室数） 保育室3 乳児室1
	（設備等） 遊戯室 職員室 調理室 図書室 教材室

③理念・基本方針（※転載）

<教育・保育理念>

- ・義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために、地域の特色を生かした適切な環境を与えて、その心身の発達を助長する。
- ・保育が必要な子どもの保育を行い、その健全な心身の発達を図る。
- ・子どもの最善の利益を考慮し、地域の特色を生かしながらその福祉を積極的に増進する。

<基本方針>

- ・家庭や地域社会との連携を図り、保護者の協力のもとに家庭養育の補完を行う。
- ・子どもが健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動ができるようにすることにより、健全な心身の発達を図る。
- ・養護と教育が一体となって、豊かな人間性を持った子どもを育成する。
- ・地域における子育て支援のために、乳幼児などの保育に関する相談に応じ、助言するなどの社会的役割を果たす。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

- ・教育目標である「心も体もたくましい子」として、強いからだを作ることを目標として、午前中、マラソンや縄跳びなどして、身体を動かす保育や毎朝「パワーアップタイム」では、手のひらをグーパー開く等遊びを交えた運動を行っている。また、年4～5回、専門家を招いてスポーツ教室を行っている。
- ・「子どもが自ら動き出すための援助」を研究主題として、保育を実践している。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 2 年 7 月 3 日（契約日） ～ 令和 3 年 3 月 1 9 日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	2 回（平成 2 4 年度）

⑥総評 地域社会の公器として 地域の子育てニーズに園の社会的責任があることを原点に

◇特に評価の高い点

瑞浪市では、ニーズオリエンテッドな観点から、地域の実態を即した保育事業を展開している。先駆的な事業として、地域の子育てニーズに応じて、平成16年に当面5歳児から幼保一体化を開始し、地域社会の公器としての保育所のあり方を協議し、園運営の社会的責任を果たすべく、平成18年より、0歳児から5歳児を対象に子育て支援室や教育委員会の連携の下、保育部・教育部の二つの形態とした一体化を推進してきた経緯がある。その過程の中で、保育方針と教育課程とのすり合わせ、両者の長所を活かした瑞浪市独自の幼稚園システムを作り上げてきた。現在、市内全域でシステムが機能しており、当園も、地域の教育・保育ニーズに合わせた保育実践を展開している。

当園は、教育・保育理念の中にある「子どもの最善の利益を考慮し、地域の特色を生かしながらその福祉を積極的に増進する。」ため、周囲を緑ある山に囲まれ、自然に恵まれた立地を保育に活かすとともに、基本方針の中で明記された「家庭や地域社会との連携を図る。」ことの具体的な実践として、長年に渡って地域と培った交流を大切にし、様々な交流行事を行っている。

とりわけ、地域のお年寄りとの交流が盛んであり、お年寄りと子どもの夏祭りを毎年開催したり、高齢者施設を訪問し、お年寄りとの触れ合い交流を行ったり、絵作品を届ける交流を行ったり、花の苗植を一緒に行ったりする等、地域のお年寄りに接する機会を充実させており、お年寄りからは様々な知識、知恵について多くの学びも得ている。

また、地域全体で子どもを育てていこうという意識が醸成されており、今年度はコロナ禍の影響で残念ながら交流が制限されているところもあるが、その中でも、感染対策を工夫し、主要な行事を開催する等して、地域の関係団体や施設(社協陶支部、ニコニコ会、ゴールド会、長寿クラブ、ひなたぼっこの会、障がい者施設、高齢者施設、小学校、どんぐり工房等)との交流し、当地域の強みを活かした保育を実践している。

園舎は採光に優れて明るく広く、園庭もまた広いので、子どもたちが思う存分遊びまわることができ、保育室には全室広いテラスが続いており、スムーズに戸外に出られ、雨天での活動

も可能にしている。また近隣にある児童館、小学校があり、地域における一貫した子育て支援ができる環境が整っている。

さらに、小規模のアットホームな雰囲気を大切に、地域の子育て支援の拠点施設として、地域に開かれた活動に力を入れるとともに、子どものエンパワメントを高める観点から、職員ワンチームとなって、子どもの主体性を育む保育実践に努めている。また、職員育成に重点を置き、保護者アンケートや個別懇談による満足度調査の活用、保育士の自己評価チェックと振り返りや、一人ひとりの目標管理の実施等を通して、園経営構想・研究構想に掲げた質の高い保育サービスの提供に取り組んでいる。

◇改善を求められる点

今後、業務のICT化の推進により、効率化・簡素化可能になり、業務時間の確保につながると考えるので、システム導入に関しては本庁の裁量権に属することであるが、さらなるICT化の推進に向けた取り組みに期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の福祉サービス第三者評価の受審を通して、保育のあり方や園の運営全般について見直すよい機会となりました。今年度はコロナ禍でありましたが、今まで培った土台を基に『ピンチをチャンスに変えよう』と、職員が一丸となり「今、できることを精一杯やっぺいこう」を合言葉にと取り組んでまいりました。ICT化については、今年度より市内の園で試行していく予定です。今後、導入されることで事務時間の効率化を図り、更に質の高い保育を目指していきたいです。今後、多様化する地域の子育て支援ニーズに対応した支援の提供に努めていきたいと考えています。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。